

## 会議概要

### 【開催概要】

名称 2016年度 第1回新潟市政策改革本部会議  
日時 2016年6月10日（金） 午後2時30分から  
会場 市役所本館5階 全員協議会室  
出席者 本部長（市長）、副本部長（副市長）、本部員（庁議構成員など）

### 【会議概要】

#### 2015年度プロジェクト

#### （2）公共施設の点検

##### ①サービス改善

- ・2014年度から2015年度までの2年間で、公共施設の問題点をチェックリスト化し、サービス改善活動を全市で展開した。
- ・実施にあたっては、区役所ワーキンググループ（WG）と施設担当職員が連携し、不特定の市民が利用する施設を優先的に、複合施設から単独施設まで359施設の点検が完了した。

##### 【成果】

- ・2年間で1,554件の問題点を把握し、すぐに対応できるもの、優先度が高いものを中心に問題点の約9割を改善。（2016年度対応の195件を含む。）

##### 【今後の進め方】

- ・2016年度からは、区役所が自律的に継続してサービス改善に取り組む。

##### ②子どもにやさしい施設改善

- ・サービス改善を実施した全359施設について、「子育て中の親と子どもにとって必要な機能が整備されているか」という視点からも点検を行った。
- ・施設を利用する前の情報収集から、施設を実際に利用するまでの10項目について点検を行った結果、子どもの利用が多い施設でも、子育て中の親と子どもにとって必要な機能の整備は不十分であることが分かった。

##### 【成果】

- ・「子どもと子育てにやさしい公共施設づくり」として事業化（所管：こども未来課）

### 【今後の進め方】

- ・必要度が高いオムツ替え、授乳、トイレなどを中心に、子育て中の親と子どもに配慮した基本サービスの整備を進めていく。

### ③施設予約の改善

- ・民間施設ではWEBや電話で予約することが一般化している中で、貸スペース業務を行う公共施設236施設（機能）の約4分の1が窓口のみでの予約であるため、電話予約ができるように改善を図った。

### 【成果】

- ・2015年度中に、電話予約を100%実現した
- ・生涯学習施設、図書館、市民会館、文化会館の主要施設への公共施設予約システム導入に着手した。
- ・併せて各施設のホームページで基本事項が理解できる内容へ改善を図るとともに、施設内で予約方法の改善結果についてポスター、チラシ、POPなどで周知を図った。

### 【今後の進め方】

- ・生涯学習施設、図書館、市民会館、文化会館の主要施設全てにおいて公共施設予約システムの導入を進める。（主要文化施設等2018年度までに順次整備を進める。）

## （3）図書室の有効活用

- ・図書館機能は人を集め、人と人の交流を生み出し、地域を活性化するツールになるのではないかという仮説をもとに、地域づくりに戦略的に活用するため、区民ニーズやエリア特性を踏まえた上で、市内23の図書室について各区役所が有効活用案を提案した。
- ・区から提案のあった下記2つの視点については、全図書室で改善する方針とし、各区の独自提案に加えて実施することとした。

（視点1）複合施設内の併設施設が開館している間は、図書室を開室する

（視点2）図書室の蔵書や資料を地域で活用する

### 【成果】

（視点1）図書室の開室時間を全体で約2倍に増加

（視点2）図書室毎に蔵書や資料を地域で利用できるよう改善活動を開始

### 【今後の進め方】

- ・市報などの広報媒体を活用した周知、地域団体へ利用カード配付するなど図書室利用の広報を進める。

- ・図書資料の有効活用のため、地域イベントでの活用や地域の茶の間などの団体貸出を拡充する。
- ・運営管理を継続して改善するため、図書室利用の実態や利用者の意見を把握し、利用拡大の取組みの効果を検証する。

## 2016年度プロジェクト

### (4) 人口減少・少子化時代における子育て支援のあり方

#### ①子育て世代から見た「子育てしやすさ」の評価向上

- ・新潟市では、子育て支援に関する様々な事業を展開しているが、市民の中には、新潟市が子育てする場として「魅力的だと思う」層がいる一方で、「魅力的だと思わない」層が存在する。
- ・市民の評価の基準は、「保育園や学童保育に関すること」や「出産・医療費助成に関すること」だけではなく、毎日の生活の中で発生していることへの解決も「子育てしやすさ」の評価向上につながる可能性がある。
- ・そこで、子育てサークルや事業（制度）利用者へのインタビュー等により生の意見を収集し、分析・評価を行い、その結果をもとに改善へつなげていく。

#### ②利用者起点に立った子ども施設の質の向上（2015年度から継続）

- ・子育て中の親と子どもが利用する市内公共施設のうち、児童館と子どもの遊び場17施設及び子育て支援センター44施設（以下「子ども施設」という。）を対象に利用者インタビューを実施し、約2,000件の改善要望を把握した。
- ・具体的な改善を進めていくために、秋葉区健康福祉課長をリーダーとする「子育て・子育てWG」を設置し、区役所が中心となって改善を進めた。

#### 【成果】

- ・「個別施設の課題」のうち、すぐにできるところから改善を進め、2016年5月末現在において、経費が不要な課題の8割、経費が必要な課題の約6割について改善を図った。

#### 【今後の進め方】

- ・これまでの取り組みを一過性の改善で終わらせず、今後も利用者起点に立って子ども施設の質の向上を図っていくために、3つのアプローチから持続的に改善を図る仕組みを構築する。
- (1) 市役所所管部署、区役所、施設の連携体制を設計する（役割の明確化）
  - (2) 各子ども施設において定期的に利用者インタビューを実施し、把握した課題の改善を図る

- (3) 指定管理者制度における運用と業績評価の見直し及び委託契約内容の見直しを行う

## 医療・介護連携プロジェクト

### (5) 超高齢化時代に向けた医療・介護連携と市役所の役割

- ・健康寿命延伸を目指して、既存事業を拡大し全国の先進事例を意識したプロジェクトを開始した。
- ・西蒲区、南区での重点区プロジェクト、保健所健康増進課を中心に全市プロジェクトを実施した。

#### **【成果】**

##### (西蒲区)

- ・ミニドック型集団検診を3地区で実施し、受診率が全体で6.3ポイント向上した。
- ・食塩摂取量等調査を実施し、調査対象者の男性80パーセント以上、女性90パーセント以上が食塩摂取目標量より食塩摂取量が多い結果となった。

##### (南区)

- ・ミニドック型集団検診や生活習慣病重症化予防策としての訪問強化を実施するため、医師会との関係強化を図った。
- ・コミュニティ協議会において南区の健康課題を共有し、地域で取り組む必要性について理解が得られた。

##### (保健所健康増進課)

- ・特定健診、がん検診受診率向上策として、受診券を改良したほか、健康寿命延伸に向けて地域健康度の見える化を進めた。

##### (保険年金課フォローアップ事業)

- ・レセプト点検の民間委託、生活習慣病の治療放置者への受診勧奨事業の民間委託の実施、ジェネリック医薬品の使用促進、頻回受診者への対応を拡充した。

#### **【今後の進め方】**

- ・2016年度から福祉部及び保健衛生部の医療・介護連携や健康寿命の延伸に向けた政策を統括する理事を配置した。福祉部保険年金課に「健康支援推進室」と保健衛生部保健衛生総務課に「健康政策室」を設置し、理事の実質的管轄下とすることで、両部の連携及び各分野における政策立案を推進する。
- ・「健康寿命延伸計画」を策定し、地域健康度の見える化と保健・医療・介護の連携体制づくりを推進する。

### (6) 2年間の取組みで分かったこと

#### **【改革の視点】**

- ・政策改革本部としての改革の視点は、「市民との接点が重要」、「地域力・市民力が不可欠」、「持続的な改革の仕組みを構築」の3点で取り組みを進めて

きた。

**【区役所の役割・市役所の役割】**

- ・区民ニーズを把握し、区の実情に応じた企画・立案・施策の実施につなげていくことなど、市民サービスの向上を図るうえで区役所が重要な役割を担っていることが改めて確認された。
- ・区役所が取り組みを進めていくためには、市役所の各所管部署が区役所と方向性を共有し、区役所に対する的確な支援や、積極的な連携・協力が必要である。
- ・本市の様々な課題に取り組むため、各区役所が蓄積したノウハウを活用し、市役所とともに自律的な改革・改善を進める仕組みが有用である。